

みんなのた場

「寺崎のはねこ踊り」は4年に一度、オンラインと同時年に行われる。寺崎八幡神社祭礼のみこし渡御に随伴する「はねこ踊り」です。現在は祭礼のない年にも「ものづふれあい祭り」はねこ踊りフェスティバルIN桃生」が開催され、はねこ踊りパレードはそのメインとなるイベントとして多くの観客を集めています。

寺崎はねこ踊り保存会

寺崎はねこ踊り保存会
子供から大人まで練習に汗所作に厳しくピシピシ指導



寺崎はねこ踊り保存会の皆さん



ものづふれあい祭りに向けて練習に励むメンバー

「寺崎のはねこ踊り」は4年に一度、オンラインと同時年に行われる。寺崎八幡神社祭礼のみこし渡御に随伴する「はねこ踊り」です。現在は祭礼のない年にも「ものづふれあい祭り」はねこ踊りフェスティバルIN桃生」が開催され、はねこ踊りパレードはそのメインとなるイベントとして多くの観客を集めています。

川開き祭りやふれあい祭りが近づいてくると、会員や地区の小中学生が夕方から集まって練習に汗を流します。子どもたちは幼稚園から踊り始めるので、みんな基本的な踊りは体に染み付いているとか。それでも手先足先の所作に、ピシピシと指導が入ります。メンバーで副会長の若山智彦さん59は「熱が入っ

ているでしょう。基本の打ち囃子、ゆったりとした扇子、速い囃子の馬鹿囃子の3曲があります。こうしたパリエーション豊かな踊りはそうないと思いますよ」と話します。

昭和44年の全国青年大会出場をきっかけに、各方面から出演の依頼が増えました。現在は石巻川開き祭りをはじめとする市内外の行事やイベントで、年間30回以上公演しています。

今年のもものづふれあい祭りは9月9日(土)、桃生植立山公園で開催されます。皆さん、ぜひお出かけください。

健康コラム 石巻市立病院

第26回 健康診断のお話 石巻市立病院 内科部長 柴田 佳子

今年も健康診断の時期がやってきた、と聞くと大方の人はドキッとします。採血など痛いのがイヤというものもあるでしょうが、何か異常があったらどうしよう、というのが不安の正体であることが多いものです。実際に平成27年の全国の定期健康診断実施結果をまとめると、何らかの異常が見つかった人の割合(有所見率と呼ばれます)は53.6%と、実に健康診断を受けた半分以上の方が返された結果をみて多少なりともがっかりしていることになりました。

項目別にみると、コレステロールや中性脂肪などの血中脂質の有所見率が32.6%と最も高く、次に血圧の15.2%、肝機能の14.7%、血糖の10.9%と続きます。これらの疾患は塩分や脂肪の取り過ぎといった食生活の乱れや運動不足などに原因があることが多いので、まとめて生活習慣病と呼ばれています。そして、これらの生活習慣病はやがて心筋梗塞や脳卒中、ガンなどを発症してしまうことがあるということが知られています。それなのにやっかいなことに生活習慣病には何の症状もない方が大多数です。

「再検査っていわれてもどっこも具合悪くないし、同じようにひっかかった人も元気だし何の問題もないんじゃないか」という声をよく耳にします。それはとても危険な考え方です。30代、40代までは問題なくとも50代、60代と年をとるにつれて心筋梗塞、脳梗塞などが次々と襲ってくるがあるので。

あまり実感できない方が多いのは、このような重篤な病気にかかる時期は退職後など社会の第一線から退いた後のことが多いのも理由の一つでしょう。本当は予防できたはずの疾患なのに、そうとは気づかぬままに後遺症などで不幸な余生を過ごさねばならなくなることは本当に残念なことです。しかし、その予防方法とは毎日の食生活の改善や散歩程度の運動習慣で十分なのです。

健康診断とは、これからの生活の過ごし方を教えてくれるとても良い機会だと思えばゆううつな気分も少しは晴れるのではないのでしょうか。

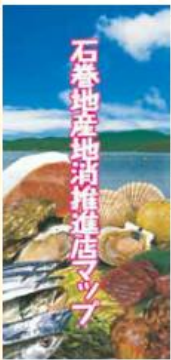
キラッとパチリ



用地課
今田 直人さん 35歳
大阪府堺市から派遣
堺市で、年々少なくなる情報と関心を向となく感じていたころ、石巻派遣の話がありました。以前勤務していた民間企業で培ったものを生かして東北に貢献できたらと思いい、決断しました。

半島沿岸部、特に雄勝方面の現状を實際に見たことは、復興とは何なのか、を考え直すきっかけになりました。業務は津波で被災した災害危険区域の買取りと活用です。今後は、南浜で工事中の石巻南浜津波復興祈念公園の事業にも関わっていきます。市民の思いを理解するものに重点を置き、一人々の集まる場所を目指していきます。

石巻の食を地産地消推進店マップで紹介



食育推進コーナー
世界三大漁場「石巻・三陸金華山沖」の海の幸を筆頭に、米やトマトの農産物にも恵まれる食料宝庫の石巻では、その食材を見事に生かした和食や中華、イタリアンなど多種多様な料理を満喫できます。
石巻市地産地消推進店マップは、石巻の魅力的なお店を紹介しています。石巻観光協会などに設置しているほか、ホームページに掲載していますので、ぜひ活用し、石巻の食を楽しんでみてください。
9月末までは「いしのみき」おもてなしじもとメニューとして地産地消推進店の皆さまとイベントを開催しておりますので、ご参加ください。随時、推進店を募集しています。石巻の食材を取り扱っているお店はぜひご登録ください。
観光課(内線3554)

まちの話題

雄勝の良さ楽しく再発見

雄勝地区

雄勝地区の児童を対象に郷土愛を育み、集団行動の大切などを学ぶ「ふるさとありんこ塾」が7月26・27日、波板地域交流センターで開かれました。



ふるさとありんこ塾

雄勝公民館の恒例行事で17人が参加。同センターに一泊し、地域住民や大学生と交流しながら、いかだ作りやキャンプファイア、視鏡りなどを体験しました。子どもたちは目を輝かせて活動に取り組み、楽しい2日間を過ごしました。

心を込めて「大きくな〜れ」

桃生地区

桃生植立山公園で7月16日、松の植林事業が行われました。



桃生植立山公園で松の植林

植林は、松くい虫の被害で減少している公園内の松林を回復させようと毎年実施していますが、今回は地区の地域づくり団体「ものう夢ネットワーク」と桃生公民館の共催で実施しました。

家族連れなど117人が参加し、松の苗木900本を「無事に大きくなって」との思いを込めながら植えていきました。

鯨肉の新たな食べ方を紹介

牡鹿地区

鯨文化を伝える「牡鹿鯨まつり」が8月6日、鮎川浜の特設会場で開催されました。



牡鹿鯨まつり

鯨肉の新たな食べ方を提案するコーナーでは、地元の女性らが考案したピザなど3種類300食が無料で振る舞われました。

ステージでは児童・生徒の太鼓演奏や郷土芸能などが披露されました。「リボンアート・フェスティバル」と連携したライブや、夜には打ち上げ花火もありました。

掘り出し物を見つけて笑顔

石巻地区

「石巻一箱古本市2017」が7月22日、市内中心商店街で開催されました。



石巻一箱古本市2017

地元をはじめ全国から34人が計12会場、1日だけの小さな書店を開きました。市内外から大勢が訪れ、街を巡りながら古本を買い求めていました。

中には珍しい古書を見つけ、喜ぶ人もいました。一箱古本市は、東日本大震災で被災した街中にぎわいを創出しようと始まり、今回が6回目です。

郷土芸能や吹奏楽で盛り上げ

河北地区

地区の夏祭り「2017サマーフェスタ・イン・かほく」が8月6日、情報プラザをメイン会場に開かれました。



サマーフェスタ・イン・かほく

特設ステージでは、小中学生や郷土芸能団体などが踊りや吹奏楽、太鼓演奏を披露しました。

かき氷やお好み焼きなどの露店も並び、大勢の住民が祭りを楽しみました。東日本大震災の犠牲者らを追悼する灯籠が北上川に流され、約1,000発の花火も打ち上げられました。

荘厳な音色を響かせました

河南地区

パイプオルガンの魅力を弾いて確かめる体験教室が7月22日、遊楽館コモレビフォーラムで開催されました。



パイプオルガン体験教室

午前の部には小学生4人が参加。オルガニストの竹佐真希さんの指導で弾き方を練習した後、それぞれが得意の曲を演奏しました。

4人は日頃からピアノやオルガン演奏を習っており、音色の違いを体感しながら演奏を楽しんでいました。

郷土の文化に触れ親しむ

北上地区

第5回ふるさと復興支援演芸会が7月9日、にっこりサンパークのクラブハウスで行われました。



第5回ふるさと復興支援演芸会

第I部では「橋浦音頭」(十三浜基句保存会)などの歌や踊り、第II部では北上地区の歴史「女川騒動」と、それを題材に語り継がれた「飯田口説」の説明、語り口上、そして「飯田口説」が披露されました。参加者は歌や踊りを満喫し、地元の歴史に聴き入っていました。

ヒーローと一緒に敵を撃退!!

石巻地区

石ノ森英画館の「マンガタンフェスティバル2017」が7月22・23日、同館と中瀬公園で開催されました。



マンガタンフェスティバル

シージェッター海斗のステージショーや水上アクションショー、石巻市出身のアニメソング歌手・遠藤正明さんのアンソングライブなどを繰り広げました。海斗の敵・ミャーガノイドを交えた水鉄砲合戦もあり、子どもたちの歓声が響きました。